

病児保育室「あんず」のチョットアノネ

No. 77 (2023. 10. 20.)

テーマ:長く続く夏かぜ流行

今もみられる夏かぜ

夏かぜとは夏にひいた風邪という意味ではなくて、毎年6月～7月にかけて流行する、ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱(プール熱)のことを指して夏かぜと言っています。今年もヘルパンギーナが7月を中心に大流行がみられました。ヘルパンギーナほどの流行ではありませんが手足口病の流行もみられました。ヘルパンギーナの大流行はおさまりほとんど患者さんはいなくなりましたが、手足口病に関しては現在も流行が持続しております。そして、全国的には咽頭結膜熱(プール熱)の流行が10年ぶりに始まったと報道されています。この季節外れの夏かぜ流行は、新型コロナウイルス感染症流行で厳密な感染対策が徹底されたため、ウイルス感染が遠ざけられた結果、子ども達が各種のウイルスに対する免疫力を獲得できなかったため(免疫負債と言います)起こったともいわれています。実際、夏かぜだけでなく、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、インフルエンザウイルス等の感染がみられています。

流行が続く手足口病

現在も手足口病は宮城県では感染性胃腸炎に次いで4番目に多い病気です。手足口病はコクサッキーウイルスやエンテロウイルス等の感染により発病します。接触・飛沫・経口感染により3～6日の潜伏期間で発病します。原因ウイルスは複数あるため何度も罹患する可能性があります。約半数では1～3日の発熱があり、口内炎と手や足に発疹がでます(他の場所にも出ることがあります)。合併症として無菌性髄膜炎を起こすことがありますので注意が必要です。根本的な治療法はありません。ウイルス排泄は2週間から数か月続きますが熱が下がり、食欲もあり、一般状態が良ければ登園(登校)できます。



手足口病の皮疹と口内炎

咽頭結膜熱(プール熱)

アデノウイルスの感染により発病します。接触・飛沫感染により2～14日の潜伏期間で発病します。40℃の高熱が3～7日間と長時間続き咽頭痛と扁桃への白苔付着、頸のリンパ節の腫れの症状が見られるのが、アデノウイルス咽頭扁桃炎です。それに結膜炎の症状が合併したのが咽頭結膜熱(プール熱)です。根本的な治療はありません。熱がさがり2日以上経過すれば登園(登校)できます。

現在流行している病気は何ですか？

宮城県内では：第1位 インフルエンザ、	第2位 新型コロナ、	第3位 感染性胃腸炎
亶理郡内では：第1位 インフルエンザ、	第2位 感染性胃腸炎、	第3位 溶連菌感染症

大友医院病児保育室「あんず」より

新型コロナウイルス感染症の第9波の流行は、やっと終息しましたが、今度はインフルエンザの流行が例年よりもかなり早く始まっています。インフルエンザの流行への対処は新型コロナの場合と同様で、人混みでのマスク着用、手洗いの励行、咳エチケット、うがい、人混みを避ける、そして、栄養と十分な休息です。



病児保育室「あんず」：電話 0223-35-6455